

「初めての電子出版」

榎戸材木店
会長 榎戸正人

もう17年も前、それまで林材新聞(廃刊)に掲載していたコラム、「辛口の酒」を「目からウロコの家づくり」と言うタイトルで自費出版しました。やはり印刷した本として残しておきたいとの思いからです。自費出版では出版社に支払う費用、印刷代などなど300万円を超える多額の出費となりました。

林材新聞への投稿は平成8年以来続いていたので、全てを出版するには全10巻を超えてしまいます。いくらなんでも3000万円以上も掛けて後世に残すほどの本ではないなと思い、自費出版を続けることは諦めていました。

ところが昨年5月、突然、ある出版社から電話があり、私が自費出版した本を偶然国会図書館で見つけ、面白い本だからアマゾンで電子出版しないかと持ち掛けられました。紙に印刷する出版とは異なり、インターネットで購入する電子出版は印刷代が掛からないため、費用が10分の1程度で済むとのこと。それならばと早速、林材新聞に掲載した2年分ほどのコラムを加筆、修正して電子出版しました。今の世の中、本屋での書籍販売数よりも電子出版で売れる方が多いのだそうです。

アマゾンはあれだけの利益を上げているだけあって、出版でも執筆者には大した印税は入りませんが、何十年後でもアマゾンがサービスを止めない限りインターネットを通じて著作を読むことができます。孫が「おじいちゃんを書いた本だ!」と言って読んでくれるのを楽しみにしています。

組合員の方々の中にも物を書くのが趣味だ、俳句や川柳を作るのが趣味だと言う方はおられると思いますが、書いたものを残したいとお思いでしたら電子出版はお勧めです。もし、紙に印刷したものを残したいのであれば、費用は別途かかりますが、POD(プリント・オン・デマンド)出版と言う方法で、1冊からでも注文すれば印刷して宅配便で指定先に届けると言うサービスもあります。

インターネットや電子メールが使えることが条件とはなりますが、ご興味がありましたら出版社の紹介を致します。

